

高齢化社会の対策 ～地域コミュニティの活性化を通じて～

宮城県仙台第三高等学校 3年-36班

1. 背景と目的

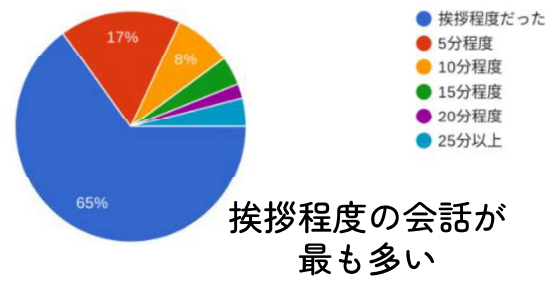
日本における少子高齢化の急激な進行は社会的な問題であり、自分たちで何かできることはないかと考えた。その中で、地域の住民同士で助け合う共助によって少子高齢化対策になるのではないかと考え、地域コミュニティの活性化についての探究を行うことにした。

2. 町内会へのアンケート

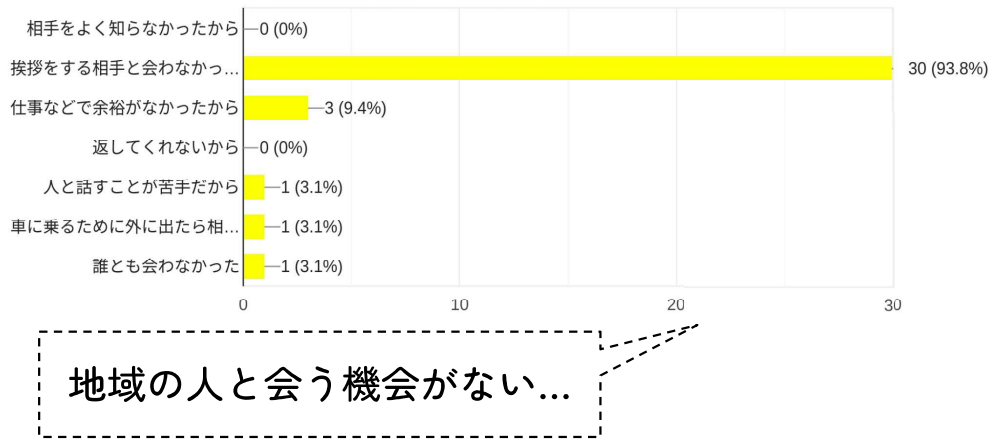
1 週間の会話の頻度



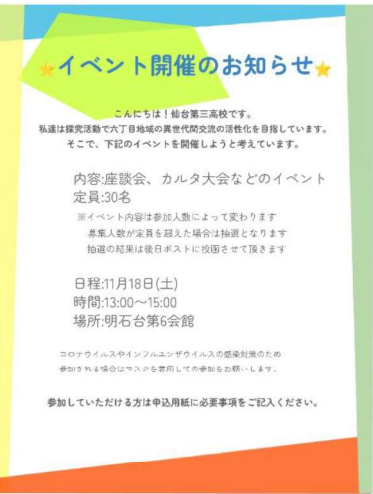
1 回あたりの会話時間



会話が出来なかった理由



3. 町内会イベントの実施



目的

地域の人々が交流する機会を設けるため

内容

座談会 町内会内の住民と雑談を通して交流を深める

イベント実施後に参加者へ向けて再度アンケートを行ってイベントの効果を確認する

ことわざかるたや、都道府県かるたなど全員が楽しめるものを行う

参加人数に応じて上記の内容を調整

4. 町内会イベントの結果



参加者 3人

イベント内容

町内会長さんらと交えた座談会で今後の町内会の盛り上げ方を中心に意見交換を行った

問題点

- ・ 回覧板のみでの宣伝だったので知らなかった人が多い
- ・ イベント内容が不確定で参加しにくい
- ・ 参加が申し込み制だったことでキャンセルがしにくい

5. 他地域との比較



河内長野市では歌謡曲等を合唱する「うたごえ」というイベントを隔月開催したり、空き地を利用したビブリオバトルや店外にテラス席を設置するなどのイベントを行っていた。

相違点

- ・ SNSなどの様々なメディアを通じて広く通知
- ・ イベントの定期的な開催
- ・ 年齢層を絞ったイベントの内容

6. イベント改善案

開催頻度	内容	参加形態	宣伝方法
1 回のみ	人数で変動	参加者が申込書に記入	回覧板のみ
↓	↓	↓	↓
隔月開催で定着させる	内容決める年齢層絞る	申し込みフリー	クロスメディア

結論

町内会のアンケートからイベントの実施で地域の人との交流を増やし、その前後での地域の人たちの交流度の変化を比較を行い、効果について検討しようとした。今回のイベントでは住民の交流度の変化の調査をすることができなかった。しかし、住民の交流を促進するイベントのための改善点、クロスメディアやイベントの対象年齢層を絞るなどについての改善方法を得ることができた。

参考文献
[コロナ禍における人間関係の疎遠化と孤立・孤独 | ニッセイ基礎研究所](#)